

黒
猫

人物

稲葉和美（27）光本商事の社員

橋目絵里（26）和美の先輩

桜井春奈（30）和美の先輩

松本玲子（29）和美の先輩

稲葉信子（50）和美の母

稲葉節子（87）和美の祖母

松本隆（47）和美の上司

○街路（朝）

自転車に乗った稲葉和美（27）が古びた商店街を走っている。

ふと和美の目の前を黒ネコが横切る。和美、黒ネコを見るが、気に留めない様子。和美は、大通りに出て信号待ちをしている。

すると、追い車線を越た軽自動車が大型トラックに正面衝突する。

和美、茫然と事故を見ている。

大勢の人だかりができ、軽自動車の中にいる人が救出される。

血だらけになって搬送される少女。

和美、恐ろしくなつて事故現場から逃げる。

○光本商事・オフィス

テロップ 光本商事

テーブルを囲んで弁当を食べる和美と桜井春奈（30）、松本玲子（29）、橋

目絵里（26）。

春奈、玲子、絵里の笑い声が響く。

春奈「ねえ、うちの旦那、外車買うことにしたのよ」

玲子「羨ましい！春奈さん。うちなんか軽自動車がやつとよ」

春奈「和美さんは、いつまで自転車に乗ってるつもり？軽自動車くらいなら買えるんじゃない？」

春奈、玲子、絵里、笑っている。

和美、下を向いてもじもじする。

玲子、嬉しそうに

玲子「そういえば、この間春奈さんがいいって言っていた下着、買いましたよ」

春奈「そうなの玲子さん。よかった。とつてもいいでしょ？絵里さんもよかったら買ってみたら？」

絵里、少し意地悪そうに、

絵里「私より、和美さんに振ってあげてくださいよ」

そう言つて、和美の胸元を見る。
和美「私はいいの。このままで」

和美、恥ずかしそうにうつむく。

○稲葉家・表（夕）

鉄筋コンクリートの三階建て住宅。

表札に、稲葉家の文字。

和美が自転車を降り、玄関へ入ろうとした瞬間、またもや黒ネコを見る。

黒ネコは塀に乗り移り、隣の敷地へと向かつていく。それをなにげなく見ている和美。和美、玄関の扉を開けて、

和美「ただいまー」

誰の返事もない。和美、家の中を見渡す。稲葉節子（87）が居間のソファー近くで倒れている。

和美「おばあちゃん！」

和美、おばあちゃんを揺り起こそうとする。

○同・表（夕）

救急車のタンカで祖母が運ばれる。
心配そうに和美が救急車を見送る。
そこへ稲葉信子（50）が帰宅する。
信子、救急車を見て、
信子「和美、何かあったの？」
和美「お母さん！おばあちゃんが倒れたの」
和美、涙目。

○同・リビング（夜）

和美がソファーでしょんぼりしている。
信子がお茶を入れている。
信子、ソファーに座る。
和美「おばあちゃん、死んじゃったらどうしよう？」

信子、和美の言葉を見無視する。
和美「お母さん、おばあちゃんのこと、心配じゃないの？」

信子、笑って、
信子「そんなことないわよ。そんなに心配だったら、明日、お見舞いに行ってみましょ

うよー

和美「うん」

和美、嬉しそうに微笑む。

○光本商事・オフィス

パソコンに向かっている和美。

玲子が和美に近寄って来る。

玲子「和美さん、悪いけどお客様にお茶を入れてくださらない？」

和美「私が・・・ですか？」

玲子、冷ややかに笑って、

玲子「私、今ちよっと手が離せないのよ。和美さん、暇でしょ？」

和美、トゲのある言葉に戸惑いながらも、

和美「はい、分かりました」

和美、給湯室でお茶を入れている。
はずみで湯呑が倒れ、お茶がこぼれて
しまう。和美の目に涙があふれる。

○中本病院・節子個室（朝）

窓からは青い空が見えている。

信子、花を花瓶に生けている。

和美が節子の脇に座っている。

和美「調子はどう？おばあちゃん」

節子「とってもいいわよ。早く退院したい

わ」

信子「ダメですよ、おばあちゃん。あと一週

間くらいは安静にしてくださいって、先生

いがおっしゃってましたから・・・」

節子「信子さんは、私がいると邪魔みたいだ

ねえ」

信子、苦笑いして、

信子「そんなことはありませんよ・・・」

和美、場を和ませるように、

和美「でも、ただの過労で良かった！」

和美、笑顔。

○光本商事・オフィス（朝）

和美が資料を整理している。

和美の手がふと止まる。

視線の先には、窓の外の木の枝上にいる黒ネコ。黒ネコは、自分の腕を念入りになめている。

和美、ぶるっと体を震わす。

和美「何もないといいけど・・・」

和美、心配気な表情。

○同・オフィス（タ）

時計は午後六時半を指している。

和美、パソコンの蓋を閉じる。

ふと空いている席に目を移す。

和美「今日、春奈さんどうしたのかしら？春

奈さんが欠勤なんて珍しいわ」

和美、大部屋を出て帰ろうとする。

ノブに手をかけた瞬間、扉が開いて松本隆（47）が血相を変えて入って来る。

松本「大変だ！春奈さんが亡くなった・・・」

松本、唇が紫色になっている。

和美「えっ？」

和美、顔が蒼白になる。

○桜井家・葬儀場

桜井家・葬儀場の表示。

曇り空が広がっている。

受付にたくさんの人々が参列している。

松井や玲子の姿もある。

和美、列に並び記帳する。

後から来た絵里が和美に気付き、近づいてくる。

絵里「和美さん聞いた？春奈さん、誰かに殺されたらしいわよ・・・」

和美「えっ？」

○フラッシュバック・光本商事・オフィス

（朝）

和美が資料を整理している。

和美の手がふと止まる。

視線の先には、窓の外の木の子葉に

る黒ネコ。黒ネコは、自分の腕を念入りになめている。

和美、ぶるっと体を震わす。

（フラッシュバック終わり）

○もとの葬儀場

和美、わなわなと震える。

和美、乾いた声で、

和美「は、犯人は誰だったの？」

絵美「さあ、まだ分かってないらしいわ」

和美、泣き崩れる。絵美、途方にくれたように和美を見つめている。

玲子が葬儀場から出て行く。

ソワソワした様子の玲子。

和美と恵美、葬儀場から出て行こうとすると、雨がしとしとと降って来る。

絵美「天気予報通りね」

絵美、傘をさす。傘を持っていない和美に近寄り、傘の中に和美を入れる。

和美「ありがとう・・・絵里さん」

和美、うつむき加減。目線を上げた瞬間、道の真ん中で和美を見つめる黒ネコと目が合う。和美、震えが止まらな
い。

絵里、心配気に、

絵里「和美さん、大丈夫？」

絵里が和美の顔を覗き込む。

和美「え、ええ・・・」

和美、怯えながらも、絵里と歩き出す。

和美と絵里が葬儀場から出た途端、一台のパトカーが目につく。

玲子が警官二人に連行されていく。

絵里、傘を落とす。

和美と絵里、茫然と走り去っていくパトカーを見つめている。

和美N「それから私の前に黒ネコが現れることはありませんでした。あの黒ネコは、もしかしたら、人の『怨念』が引き寄せたものだったのでしょうか？」